

第2期 八代市
まち・ひと・しごと
創生総合戦略
令和5年度進捗状況について

令和6年11月

目次

1. 基本戦略Ⅰ

住みたいまち	5
--------	---

2. 基本戦略Ⅱ

働きたいまち	11
--------	----

3. 基本戦略Ⅲ

育てたいまち	17
--------	----

評価	評価の説明
○	目標値 を 達成 しているもの
↗	計画策定時の値と比べ、数値が上昇しているもの
→	計画策定時の値を維持しているもの
↘	計画策定時の値と比べ、数値が低下しているもの

重要目標達成指標一覧

No	数値目標	策定時		R5実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ	
		現状(R1)	目標(R6)					
基本戦略Ⅰ 住みたいまち								
1	住み続けたいと思う市民の割合(%)	76.8	80.0	81.2	○	1.2		P5
2	人口社会増減率(%)	▲ 0.26	▲ 0.20	0.29	○	0.49		P5
基本戦略Ⅱ 働きたいまち								
1	若者・子育て世代(20歳～34歳)が5年後に帰ってくる人数(人)	351	360	－	－	－		P11
2	事務的職業及びIT 関連職業の求人倍率(倍)	0.38	0.50	0.44	↗	▲ 0.06		P11
3	市内高校の新卒者が管内に就職したいと思う割合(%)	26.8	30.0	31.5	○	1.5		P11
基本戦略Ⅲ 育てたいまち								
1	希望出生率(%)	1.88	2.00	－	－	－	P17	
2	子ども女性比(%)	20.8	25.5	17.6	↘	▲ 7.9	P17	

重要業績評価指標(KPI)一覧

No	重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ
		現状(R1)	目標(R6)				
基本戦略Ⅰ 住みたいまち							
1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり							
1	緊急時における避難体制や市からの情報提供が整っていると感じる人の割合(%)	39.9	60.0	41.2	↗	▲ 18.8	P5
2	防災士の資格を持つ人数(人)	148	198	223	○	25	P5
3	避難に関する協定数(人)	20	25	34	○	9	P6
4	防災アプリ、メールの登録者数(人)	0	40,000	26,408	↗	▲ 13,592	P6
2. 全ての人が利便性を享受できるデジタル化の推進							
5	市が提供するさまざまな市民サービスが整ってきたと感じる人の割合(%)	28.6	50.0	30.2	↗	▲ 19.8	P7
6	新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(件)	0	3	3	○	0	P7
7	オンラインでできる行政手続きの数(件)	17	100	82	↗	▲ 18	P8
8	先進技術を活用した業務改善の取組件数(件)	0	30	24	↗	▲ 6	P8
3. 地域資源を活かした多様な交流の実現							
9	観光入込客数(人)	2,169,748	2,170,000	2,249,855	○	79,855	P9
10	スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数(人)	5,054	7,500	12,944	○	5,444	P9
11	民俗伝統芸能伝承館の累計入館者数(人)	0	60,000	40,795	↗	▲ 19,205	P9
12	市内で生活している外国人との関わりが増えてきたと感じる割合(%)	23.6	35.0	36.2	○	1.2	P10
13	ふるさと納税寄付額(千円)	355,000	1,000,000	2,102,821	○	1,102,821	P10
基本戦略Ⅱ 働きたいまち							
1. 挑戦する人と企業を応援するまちづくり							
1	認定創業支援等事業による創業者数(人)	56	80	52	↘	▲ 28	P11
2	中心市街地でのICT 産業への就業人数(人)	0	20	17	↗	▲ 3	P11
3	中心商店街の歩行者・自転車通行量(人)	6,756	9,000	5,229	↘	▲ 3,771	P11
4	UIJ ターンでの就業人数の増加(指数)	100	110	49	↘	▲ 61	P12
5	地域産業での新規事業創出数(件)	0	15	23	○	8	P12
2. 稼げる農林水産業の推進							
6	農業経営者所得(万円)	411	450	633	○	183	P13
7	先端技術を活用した補助事業の件数(件)	21	28	47	○	19	P13
8	新規就農者数(人)	17	40	16	↘	▲ 24	P14
9	販路拡大のための拠点数(箇所)	0	3	3	○	0	P14

No	重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ	
		現状(R1)	目標(R6)					
3. 南九州のゲートウェイ「八代港」の利用促進								
10	八代港総取扱貨物量(万トン)	447	497	398	↘	▲ 99		P15
11	クルーズ船寄港数(回)	19	100	19	→	▲ 81		P15
12	八代港のコンテナ取扱量(TEU)	23,357	29,000	23,159	↘	▲ 5,841		P15
13	イベント開催回数(回)	0	20	14	↗	▲ 6		P16
14	観光体験プログラムの催行回数(回)	15	25	16	↗	▲ 9		P16
基本戦略Ⅲ 育てたいまち								
1. 次代を担う子供の育成								
1	教育環境の整備・充実に満足する市民の割合(%)	0.0	70.0	40.7	↗	▲ 29.3	P17	
2	「授業が分かる」と思っている子供の割合(小学校)(%)	83.2	90.0	83.2	→	▲ 6.8	P17	
3	「授業が分かる」と思っている子供の割合(中学校)(%)	67.3	75.0	66.7	↘	▲ 8.3	P17	
4	学校が「楽しい」と思っている子供の割合(小学校)(%)	64.6	70.0	58.3	↘	▲ 11.7	P18	
5	学校が「楽しい」と思っている子供の割合(中学校)(%)	52.2	60.0	59.7	↗	▲ 0.3	P18	
6	幼稚園、小・中学校施設の安全性や快適性が確保されていると感じる保護者の割合(%)	44.8	60.0	43.9	↘	▲ 16.1	P18	
2. 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり								
7	本市が子育てしやすいと感じる人の割合(%)	67.0	70.0	64.4	↘	▲ 5.6	P19	
8	本市で子育てを希望する人の割合(4か月健診時)(%)	95.0	97.0	97.5	○	0.5	P19	
9	こども医療費助成の延べ件数(件)	251,449	255,000	287,075	○	32,075	P20	
10	こどもプラザの延べ利用者数(人)	13,515	15,000	8,475	↘	▲ 6,525	P20	
3. 仕事と家庭を両立しながら楽しく子育てできるまちづくり								
11	子育てが楽しいと感じることが多い人の割合(%)	59.2	63.0	58.8	↘	▲ 4.2	P21	
12	ICTを活用する子育て支援事業数(事業)	0	4	3	↗	▲ 1	P21	
13	病児・病後児保育の利用申込に対する利用決定率(%)	100	100	100	○	0	P22	
14	市主催のプログラミングスクール等の受講者数(人)	0	300	516	○	216	P22	

基本戦略Ⅰ 住みたいまち

■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
住みたいと思う市民の割合(%)	76.8	80.0	81.2	○	1.2
人口社会増減率(%)	▲ 0.26	▲ 0.20	0.29	○	0.49

■基本目標と具体的施策

基本目標1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり

熊本地震や令和2年7月豪雨等を教訓として、先進技術も活用しながら、市民、事業所、行政等多様な主体が災害時の備えを行い、発災時には協働することで、市民総ぐるみで災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
緊急時における避難体制や市からの情報提供が整っていると感じる人の割合(%)	39.9	60.0	41.2	↗	▲ 18.8

(1)多様な担い手による防災の推進

災害にしっかりと備え、災害時にも安心できる体制を確保するためには、行政はもとより、市民、自主防災組織、企業など、多様な担い手による防災体制を確保する必要があります。そのため、防災人材の育成や自主防災組織の活動促進、防災に協力いただける企業等の確保を行うなど、市民総ぐるみの防災体制の構築を目指します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	165	180	223	-	○	25
防災士の資格を持つ人数 (人)	148	198 (累計)	R5状況	・防災士資格取得を目的とした講習会や補助制度の周知により、転出や死亡を差し引いても1年間で43名の防災士を増やすことができた。					
今 後 の 方 針									
・市ホームページ等において、防災士資格取得を目的とした県主催の地域防災リーダー育成講習「火の国ぼうさい塾」の周知とともに、資格取得費用への補助制度の周知を継続して実施していく。									

(2)防災・減災のための基盤整備

発災時の被害の最小化を図るため、道路や情報基盤などの社会基盤の強靱化を強力に進めていきます。加えて、多様な避難を推進することで、災害時にも適切に情報を収集し、安心して避難できる体制の確保を目指します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	30	30	34	－	○	9
避難に関する協定数(件)	20	25 (累計)	R5状況	民間2施設と利用条件や場所などの調整・協議を実施し、協定を締結した。					
今 後 の 方 針									
・協定数の少ない「津波・水害避難ビル」や「車中避難にも対応できる避難場所」などの確保に向け、民間事業者に対しての協力依頼を継続的に実施していく。									

(3)先進技術を活用した防災・減災の推進

Society5.0における安全安心なまちづくりにつなげるため、国や先進自治体、大学、企業などと連携の上、防災分野においてICT やAI などの先進技術の活用を検討します。これらの技術を用い、防災関連情報を分かりやすく伝え、迅速に収集することのできる体制の整備や効率的な避難所の運営など、防災・減災体制の充実・強化を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	20,777	24,377	26,408	－	↗	▲ 13,592
防災アプリ、メールの登録者数(人)	0	40,000 (累計)	R5状況	・出前講座や市登録防災士等を通じて、防災アプリやメール等の周知を図るとともに、8月には、市内のショッピングセンターにおいて防災啓発活動を実施し、登録促進を図った。 ※令和5年度中の情報配信システム登録者数:2,031人					
今 後 の 方 針									
・出前講座や市内商業施設での啓発活動などのあらゆる機会を活用し、防災アプリや防災メール等の登録支援を積極的に行うとともに、市内企業や団体を訪問し、従業員等への本システムの周知及び登録について協力を要請していく。									

基本目標2. 全ての人が利便性を享受できるデジタル化の推進

業務改革(BPR)や制度の見直し等を実施した上で、行政サービスのデジタル化に必要な情報システムの整備を行うなど、国の動きと連動しながら、「すぐ使えて」、「簡単」で、「便利」な利用者中心の行政サービスの実現に向けて取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
市が提供するさまざまな市民サービスが整ってきたと感じる人の割合(%)	28.6	50.0	30.2	↗	▲ 19.8

(1) 交通・決済等の生活面におけるデジタル化の推進

市民にデジタル化活用の支援を行うと共に、地域に最適で持続可能な公共交通を実現するため、先進技術を活用した新しい輸送・移送手段を導入し、移動の利便性の向上に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	0	2	3	-	○	0
新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(件)	0	3 (累計)	R5状況	国交省の公募事業である「モビリティ・ハブ実証事業」に2カ年事業として採択され、1年目である令和5年度は新八代駅を拠点にバス、タクシー、レンタサイクル等の様々な交通手段を接続させ、スマートフォンで簡単に操作できる「やつしろモビリティアプリ」を介し、スムーズに利用者に必要なサービスを提供できるモビリティ・ハブの整備を行った。 また、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、既存の乗合タクシーのAIオンデマンド化について、デジ田交付金事業への応募を行うとともに、次世代モビリティの導入に関しても、民間事業者と連携し、具体的な地域をフィールドに、自動運転の実証実験の可能性について検討を行った。					
今 後 の 方 針									
・採択事業の2年目であるR6年度に実証実験の一環として、昨年度開発したデジタル予約アプリを活用し、JR新八代駅からくまモンポート八代を結ぶAIオンデマンドバスの運行を行う。 ・また、乗合タクシーの運行効率化と利便性の向上を図るため、現在運行している路線の一部地域においてAIオンデマンド方式の導入に向けた検討を行う。									

(2) いつでも・どこでもつながる市役所づくり

市民生活の利便性を高めるため、手続きのオンライン化、情報のオープン化、市政の見える化などを推進し、いつでもどこでも利用しやすい行政サービスの充実を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
オンラインでできる行政手続きの数(件)	17	100 (累計)	R5状況	24	69	82	－	↗	▲ 18
国が運営する「マイナポータル」による、パスポート、年金関係の手続き、及び本市のオンライン申請作成ツールを活用した健診の申込や、子ども医療費受給資格者証に関する手続きなど、新たに13手続きをオンライン化。 また、本市のオンラインでできる行政手続きをわかりやすく伝えるため、市のホームページ上に、ポータルサイト「ねっとで窓口」で各種手続きを取りまとめて紹介している。									
今 後 の 方 針									
デジタル市役所の構築に向け、行政手続きのオンライン化を拡充に向けて担当課と協議を進めるとともに、オンライン申請が可能な手続きの周知、及び利用者が使いやすくなるようデザイン性や操作性を高めるなど利用促進を図る。									

(3) 先進技術による庁内業務の効率化

本市の運営の効率化を図るため、庁内業務のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、人的・財政的な負担を軽減しながら、市民生活を支える様々なサービス機能の維持・向上を実現します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
先進技術を活用した業務改善の取組件数(件)	0	30 (累計)	R5状況	7	11	24	－	↗	▲ 6
業務アプリ作成ツールを活用し、市職員が自ら、公用車の運行管理や業務の進捗管理、職員の情報共有システムの構築を行うことで、実情に合った業務効率化を図ることができた。また、窓口でのキャッシュレス決済システムの導入により、会計事務や証明書等の発行件数の集計業務の効率化も実現するなど、新たに13業務の改善に取り組んだ。									
今 後 の 方 針									
庁内業務の更なる効率化を図るため、BPR(業務の抜本的見直し)を行うとともに、業務アプリ作成ツールや生成AI等のデジタル技術を活用した業務改善について調査研究し、効果が認められるものについては導入を進めていく。									

基本目標3. 地域資源を活かした多様な交流の実現

本市が有する地域資源の活用や多文化共生の推進により、多様な交流のあるまちづくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
観光入込客数(人)	2,169,748	2,170,000	2,249,855	○	79,855

(1) スポーツを活かした交流人口の拡大

官民一体で組織される地域スポーツコミッションにより大会・合宿の誘致やスポーツツーリズムを推進するほか、ホストタウン相手国との交流を促進することで、スポーツを通じた交流人口の拡大による地域活性化に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	6,183	8,070	12,944	－	○	5,444
スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数(人)	5,054	7,500	R5状況	・スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数は令和5年度目標値の6,950人に対し、実績は12,944人であったことから、目標達成とする。(別紙) ・数値目標を達成できた要因として、官民一体の組織である八代市スポーツコミッションが中心となって各種大会・合宿を誘致した、西日本大学男子ソフトボール選手権大会やバドミントン日本A代表合宿、全国シニアソフトボール古希八代大会、大相撲八代場所などを開催したことがあげられる。また、SPORTECの出展、スポーツ団体や旅行代理店への訪問など、営業活動を実施したことが要因である。 ・令和6年度以降に向けた取り組みとして、西日本大学男子ソフトボール選手権やバドミントン日本A代表合宿の継続開催のため、日本バドミントン協会や西日本ソフトボール連盟に対して要望活動を行った。					
今 後 の 方 針									
今後も引き続き、西日本大学男子ソフトボール大会やバドミントン日本A代表合宿、九州小学生PGAバドミントン大会など継続開催に向け取り組む。また、八代市スポーツコミッションを中心に、その他新規スポーツ大会や合宿の誘致を行い、バドミントンの国際大会であるアジアジュニアチャンピオンシップの誘致を進める。									

(2) 歴史・文化を活かした交流人口の拡大

民俗伝統芸能伝承館などの文化施設をはじめ、日本遺産認定、八代城築城400年等を契機とした歴史文化遺産の活用促進、情報発信の強化を図ることで、地域活性化を推進するとともに、インバウンドへの対応を含めた交流人口の拡大に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	9,475	19,088	40,795	－	↗	▲ 19,205
民俗伝統芸能伝承館の累計入館者数(人)	0 (未開館)	60,000 (累計)	R5状況	・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が解消され、展示と絡めたイベントの開催などによる施設の周知に積極的に取り組んだこと、さらに、クルーズ船寄港再開などに伴いインバウンドを含む観光客が増加したことにより、入館者数が2万人を超えた。(21,707人) ・これにより、令和3年度からの累計入館者数は4万人に達し、目標値の6万人に近づくことができた。					
今 後 の 方 針									
令和5年度に引き続き、より多くの市民や観光客が施設を訪れ、本市の伝統文化への関心と保存継承に向けた気運が一層高まるよう、令和6年7月から入館料を無料化し、さらなる入館者数の増加に取り組んでいく。									

(3) 多文化共生のまちづくり

外国人市民が暮らしやすく、外国人観光客が訪れやすい環境を整えるため、多言語化の推進や日本人・外国人が相互理解を深める機会を提供するなど、多文化共生のまちづくりに取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	33.4	30.9	36.2	-	○	1.2
市内で生活している外国人との関わりが増えてきたと感じる割合(%)	23.6	35.0	R5状況	令和5年度は、やつしろ国際協会を中心とした、日本語教室や異文化カフェ、外国人が活躍する職場見学会、やさしい日本語講座など、市民対象の講座等を定期的に開催したほか、大型の交流イベントを初めて実施するなど、多文化共生への理解促進に取り組んでおり、市民の認知度も向上していると考える。					
今 後 の 方 針									
・引き続き、現在の取組を継続しつつ、活動の輪を地域全体にひろげるためにも、多文化共生推進の中心的な役割を担うやつしろ国際協会の会員獲得、活動の充実に力を入れていく。									

(4) 物産をきっかけとした魅力向上

本市の魅力向上を図るため、ネット販売やふるさと納税事業などで注目を集め始めている特産品を足掛かりとした、本市の魅力発信に取り組みます。あわせて、ふるさと納税事業などから消費者が求める特産品の情報を生産者にフィードバックし、特産品の魅力向上に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	1,764,608	2,180,203	2,102,821	-	○	1,102,821
ふるさと納税寄付額 (千円)	355,000	1,000,000	R5状況	・R5年度も前年度に次ぐ21億円超の寄附額を維持したものの、2年連続で制度改正の影響を受けて、本市の上位返礼品が対象外となり、大きな影響を受けている。今後はトップラインとなる魅力的な返礼品の発掘、開発並びに磨上げが必要。 ・これまでの地道なPR活動などにより全国の寄附者に継続して支援いただけていることがKPI達成の要因 ・ポータルサイトの追加を検討					
今 後 の 方 針									
トップラインとなりうる返礼品取扱事業者への積極的な訪問・交渉の実施。									

基本戦略Ⅱ 働きたいまち

■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
若者・子育て世代(20歳～34歳)が5年後に帰ってくる人数(人)	351	360	—	—	—
事務的職業及びIT関連職業の求人倍率(倍)	0.38	0.50	0.44	↗	▲ 0.06
市内高校の新卒者が管内に就職したいと思う割合(%)	26.8	30.0	31.5	○	1.5

■基本目標と具体的施策

基本目標1. 挑戦する人と企業を応援するまちづくり

市民が生き生きとした生活を営むためには、生活の糧を得るための収入の確保が重要です。

本市の中心市街地をIT産業の集積と人材育成の拠点として、市内外から人と企業を呼び込むだけでなく、そこに集まった人々が市内各地へも足を運ぶ仕組みを作るとともに、地域産業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)導入とITスキル人材との融合を図るなど、生産活動にかかわる多様な人や企業を多面的に応援します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
認定創業支援等事業による創業者数(人)	56	80	52	↘	▲ 28

(1) 中心市街地を核としたICT産業の集積と人材の育成

中心市街地の賑わいづくりと地域産業の活性化を図るため、中心市街地エリアにおいてICTビジネスの集積を図るとともに、コワーキングスペース等を活用したICT人材の育成及びマッチングを展開します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
中心市街地でのICT 産業への就業人数(人)	0	20	実績値	11	11	17	－	↗	▲ 3
			R5状況	令和5年度は、中心市街地へオフィス系企業の進出実績はなかったものの、既立地の誘致企業での地元雇用が伸びている。今後も誘致企業の雇用に対する取り組みについて支援を継続していく。					
中心商店街の歩行者・自転車通行量(人)	6,756	9,000	実績値	5,940	5,628	5,229	－	↘	▲ 3,771
			R5状況	新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、今後商店街の賑わいも徐々に回復傾向に進んでいくと推測されるが、コロナ禍で遠退いた人の足が戻ってくるまでには、ある程度の期間が必要と思われるので、今後も粘り強い商店街活性化に向けた支援が必要と考える。					
今 後 の 方 針									
・令和5年度に引き続き、各商店街振興組合と連携して商店街活性化事業を推進していく。									

(2)関係人口の創出・拡大とUIJ ターン受入れ

ビジネスを軸とした関係人口の創出・拡大を図るため、情報発信や副業人材活用などに取り組みます。また、本市の取組に関心を持ち、中心市街地等を訪れた方々を市内各地区に誘客し、リモートワークや多拠点居住による長期滞在、最終的には、移住・定住先として、選ばれるまちづくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	80	75	49	－	↘	▲ 61
UIJ ターンでの就業人数の増加(指数)	100	110	R5状況	転入者数の減少に加えて、給与収入がある者の数(就業人数)が転入者の減少率より大きく減っていることが指標の主たるマイナス要因として考えられる。					
今 後 の 方 針									
転入者を含む、就業を希望しながら就業につながっていない状況がある場合には、ハローワーク八代などと連携しながら就職のマッチングにつながる取組を展開していく。									

(3)地域企業の成長支援

地域企業の稼ぐ力を高めていくとともに、企業や住人が自ら地域の課題への解決策を考え、自分の強みや地域資源を活用することで、ローカルイノベーションを起こしていく意識と行動を起こすような企業と産業の担い手を育成、支援していきます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	9	16	23	－	○	8
地域産業での新規事業創出数(件)	0	15 (累計)	R5状況	令和5年度までに、第1・第2・第3期生36名のうち、50%の実施率を目標に取り組み、計23名64%の実施率となり、目標値を上回る結果となった。産学官金での支援体制及び伴走型での支援を行ったことが実績に繋がったと考えている。 次年度以降は、未来創造塾の姉妹塾が県内外で増えており、他市町村と交流を深めながら実績に繋げていきたい。					
今 後 の 方 針									
引き続き、熊本大学をはじめ市内経済団体・金融機関と連携して事業を推進していくとともに、県内外の姉妹塾と情報共有を行いながら、事業自体のブラッシュアップを行っていく。令和5年度以降は高校連携や都市部企業との繋がりに注力していき、“地方創生”につなげていく。									

基本目標2. 稼げる農林水産業の推進

高品質な農林水産物の安定生産に向け、生産、流通・販売、消費にわたるフードチェーンのスマート化を支援し、本市の特性を活かした生産体制の確立や低コスト化に取り組み、稼げる農林水産業を実現するとともに、担い手の確保を推進します。

また、フードバレーやつしろの取組を進めるなど、農林水産物の需要拡大を創出します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
農業経営者所得(万円)	411	450	633	○	183

(1)スマート農林水産業の推進

本市の主要産業である農林水産業の持続性を高めるため、作業の効率化や省力化による生産性の向上等に向け、スマート農林水産業を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	31	41	47	－	○	19
先端技術を活用した補助事業の件数(件)	21	28 (累計)	R5状況	令和5年度は例年の補助事業の実施により、令和6年度の目標値に向けて順調な取組ができた。 今年度も、農業団体・関係機関と連携しながら取組を進めていく予定としている。					
今 後 の 方 針									
・農業の担い手が減少傾向にあり、農作業の効率化・省力化は本市の重点項目であることから、今後も積極的に取組・支援を行っていく。									

(2) 新規就農者に対する支援

本市農業生産の持続的な発展のため、品質向上、生産性向上、経営の確立を基本とし、新規就農者の多様なニーズに合わせた技術習得、農業経営スキルの向上の支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	29	24	16	－	↘	▲ 24
新規就農者数(人)	17	40	R5状況	各団体との連携による周知活動から新規就農者数を調査している。学卒新規就農者、Uターンによる新規就農者とも前年度より減少している。コロナ禍の影響、現在の資材等高騰の状況下、新規雇用を選択される人が増加していることから、目標達成に至っていない。					
今 後 の 方 針									
・令和5年度に引き続き、県・農業団体と連携を図り、各種事業の啓発等を実施する。 ・新規就農者育成総合対策を活用し、担い手の更なる確保を図る。									

(3) 農林水産物のブランド確立・販路拡大

本市の食関連産業の活性化と生産者等の所得向上を図るため、農林水産物の国内外でのプロモーション活動やITの活用、販路開拓・販路拡大のための拠点づくり、消費者ニーズを踏まえた新商品開発に取り組めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	0	1	3	-	○	0
販路拡大のための拠点数(箇所)	0	3 (累計)	R5状況	令和4年度設置となった1箇所に加え、新たに令和5年度は道の駅等2箇所を追加した。これらを中心に、国内外商談会等へ出展及び出展サポート、輸出実務業務等各種事業を実施した。					
今 後 の 方 針									
令和5年度に引き続き、商流拠点と協力し、国内外商談会等各種事業に取り組むとともに、売り先のニーズ調査を実施しながら、ニーズに応じた新商品開発及び本市農林水産物等の国内外への販路拡大を実施していく。									

基本目標3. 南九州のゲートウェイ「八代港」の利用促進

「国際旅客船拠点形成港湾(くまモンポート八代)」が整備されたことにより、物流機能と人流機能を最大限に発揮できるようになった県内最大の貿易港である「八代港」のさらなる利用を促進し、本市産業の活性化を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
八代港総取扱貨物量(万トン)	447	497	398	↘	▲ 99
クルーズ船寄港数(回)	19	100	19	→	▲ 81

(1) 航路誘致へのポートセールスと八代港を活用する企業の誘致

国、県による港湾施設の整備等の物流機能の強化にあわせ、積極的なポートセールスを展開するとともに、後背地に港湾利用企業の誘致を進めることで、八代港の利用促進を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		実績値					
八代港のコンテナ取扱量(TEU)	23,357	29,000	R5状況	26,946	25,372	23,159	-	↘	▲ 5,841
今後の方針									
TSMCの熊本進出を契機として、益々輸出入貨物の増加が期待されているなか、物流の拠点として八代港が注目されているところであり、今後一層の利用促進が期待される。このような状況等を踏まえ、荷役事業者や荷主を積極的に訪問し八代港の利用に向けて働きかけていくとともに、今年度から新設した「モーダルシフト促進支援事業助成金」により物流の2024年問題を見据えた新たなニーズに応えていくなど、八代港の利用促進に繋がる取組みを多岐にわたり実施していく。									

(2)くまモンポート八代の利用促進

海の玄関口である国際クルーズ拠点「くまモンポート八代」において、多様な主体によるイベントの開催や誘致による賑わいの創出を行うとともに、「くまモンポート八代」周辺施設との連携事業を実施し、利用促進に繋げていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	4	20	14	－	↗	▲ 6
イベント開催回数 (回)	0	20	R5状況	R5年4月から国際クルーズ船寄港がはじまり、R5年度は19回寄港がありくまモンポート八代の利用促進がされたところ。イベント回数はR4年度より回数自体は若干減少したものの、定期的にイベントが開催されており、くまモンポート八代の賑わいが定着化しつつある。					
今 後 の 方 針									
令和5年春から国際クルーズ船の寄港回数も増加し、くまモンポート八代の認知度が向上しつつある。そのような中、くまモンポート八代・クルーズ活性化協議会の「みなとオアシス部会」において、「くまモンポート八代」を含むみなとオアシスを活用した交流人口の拡大に向け、イベント事業補助金によるイベント誘致を推進するとともに、地域団体等との連携し、引き続き、イベントの開催を推進していく。									

(3)クルーズ船による地域の活性化

新型コロナウイルス感染症収束後のクルーズ船寄港回復を見据え、受入環境の整備を継続実施し、交流人口の拡大など地域の活性化を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	0	0	16	－	↗	▲ 9
観光体験プログラムの催行回数(回)	15	25	R5状況	R5年4月から国際クルーズ船運行が本格的に再開し、多くのクルーズ船が寄港し、寄港時に本市ならではの観光体験プログラムが複数回催行された。					
今 後 の 方 針									
令和5年春から国際クルーズ船クルーズ船の寄港回数も増加し、令和6年度には、さらにクルーズ船寄港回数が増加する見込みとなっている。くまモンポート八代・クルーズ活性化協議会として、寄港情報を収集し、関係者への情報発信を強化しつつ、各団体と連携の上、クルーズ船の寄港に合わせた観光体験プログラムの催行を進め、地域における経済波及効果を生み出す取組を推進していく。									

基本戦略Ⅲ 育てたいまち

■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
希望出生率	1.88	2.00	—	—	—
子ども女性比(%)	20.8	25.5	17.6	↘	▲ 7.9

■基本目標と具体的施策

基本目標1. 次代を担う子供の育成

1人1台のタブレットPCを用いて“EdTech”を活用することにより、誰一人取り残すことなく子供たちの力と可能性を最大限引き出す教育の実現、災害や感染症等の状況下における学びの保障及び子供・家庭との効果的なコミュニケーションの実現を目指します。

また、学校・園、子供たち及びその保護者のニーズに応えられる指導体制を構築し、子供たちの新しい時代を生き抜く力の育成に向けた授業づくりを推進します。

さらに、教育環境の質的向上を図る整備を行い、新たな教育的ニーズに対応できる次世代の教育インフラの充実に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
教育環境の整備・充実に満足する市民の割合(%)	—	70.0	40.7	↗	▲ 29.3

(1)1人1台のタブレットPCを活用した新たな時代を豊かに生きる力の育成

1人1台のタブレットPCの機能を学校及び家庭において効果的かつ最大限に活用し、個別最適化された学びの実現、課題解決能力の育成、日常的な家庭との連携、どのような状況であっても学び続けることができる環境づくりを目指します。

重要業績評価指標 (KPI)		策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
		現状 (R1)	目標 (R6)							
「授業が分かる」と思っている子供の割合 (%)	小学校	83.2	90.0	実績値	84.5	82.2	83.2	-	→	▲ 6.8
				R5状況	「授業が分かる」と回答した児童の割合が昨年度より上昇した。 令和5年度は、授業におけるICT活用の推進に向けて、主に以下のような取組を行った。 ・授業におけるICT活用に関する教職員向けの研修を実施した。 ・授業における1人1台タブレットPCの活用の好事例について、研修や校務支援システム等を通して、学校内や学校間で情報共有を行った。 ・ICT授業サポーターによる訪問支援等により、教職員の授業におけるICT活用を支援した。					
	中学校	67.3	75.0	実績値	73.9	72.8	66.7	-	↘	▲ 8.3
				R5状況	「授業が分かる」と回答した生徒の割合が、昨年度よりも低下した。 令和5年度は、授業におけるICT活用の推進に向けて、主に以下のような取組を行った。 ・授業におけるICT活用に関する教職員向けの研修を実施した。 ・授業における1人1台タブレットPCの活用の好事例について、研修や校務支援システム等を通して、学校内や学校間で情報共有を行った。 ・ICT授業サポーターによる訪問支援等により、教職員の授業におけるICT活用を支援した。					
今 後 の 方 針										
令和5年度に引き続き、教職員研修、学校内・学校間の情報共有、ICT授業サポーターによる支援を継続していく。また、ICT学習支援ツール「スタディサブリ」について、全ての本市立学校 (小学4年生～中学3年生) の活用を推進していく。										

(2) 子供の生きる力を育成する学校・園教育の充実

子供の生きる力を育成するため、豊かな心の育成、郷土愛の育成及び良好な人間関係づくりを進めるとともに、誰一人として取り残さない個別最適化された学びの実現に向けた学校・園教育の充実を行います。

重要業績評価指標 (KPI)		策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
		現状 (R1)	目標 (R6)							
学校が「楽しい」と思っている子供の割合 (4段階評価の「4」の割合) (%)	小学校	64.6	70.0	実績値	59.4	57.8	58.3	－	↘	▲ 11.7
				R5状況	・新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったことにより、学校生活の行動制限が緩和されたり、学校行事が以前の状態に戻ったりしたことが微増の要因と考えられる。					
	中学校	52.2	60.0	実績値	57.2	54.8	59.7	－	↗	▲ 0.3
				R5状況	・新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったことにより、学校生活の行動制限が緩和されたり、学校行事が以前の状態に戻ったりしたことが微増の要因と考えられる。					
今 後 の 方 針										
・引き続き、学校、地域、家庭が連携して、豊かな心の育成、郷土愛の育成及び良好な人間関係づくりを充実し、誰一人として取り残さない個別最適化された学びの実現に向けた学校教育を推進する。 ・令和5年度に引き続き、Webアンケートを実施する。										

(3) 快適な教育環境の整備

子供たちが安全で安心し、快適な環境で学び、生活できるようにするため、子供たちの学びを支える教育環境の質的向上・充実を推進します。また、大規模地震や豪雨災害に対応できるよう、校舎における非構造部材耐震化や避難所としての防災機能強化に取り組みます。

■重要業績評価指標(KPI)

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	51.7	47.0	43.9	-	↘	▲ 16.1
幼稚園、小・中学校施設の安全性や快適性が確保されていると感じる保護者の割合 (%)	44.8	60.0	R5状況	・地震時の児童生徒等の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、非構造部材(吊下げ式スクリーン)の撤去(小学校4校、中学校4校、幼稚園1園)と体育館・屋外トイレの洋式化工事(小学校11校、中学校6校)を行った。 ・また、建物の外壁落下等を未然に防ぐための外壁の劣化状況について、小学校5校、中学校4校の点検調査を行った。 ・実績値が下がっているが、教室など児童生徒等や教職員がよく使用し目にする箇所の工事が少なかったことで、改修工事が行われている実感が湧かなかったことなどが要因として考えられる。					
今 後 の 方 針									
・子供たちが安全で安心な環境で教育を受けられるように教育施設の整備を図り、また、地震時の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、令和6年度は外壁の点検調査(小学校5校、中学校2校、幼稚園2園)や吊下げ式スクリーン撤去(小学校3校、中学校1校)を実施する。 ・教育環境の改善のため、校舎トイレ改修工事の設計(小学校2校、中学校6校)や校舎トイレ改修工事(小学校16校、中学校6校)、避難所としての防災機能強化にも繋がる体育館や屋外トイレの和便器の洋式化工事(小学校11校、中学校6校)を実施し、今後も和便器の洋式化を推し進めていく。									

基本目標2. 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり

結婚・妊娠期から出産・子育て期にわたる包括的支援体制の充実を図り、切れ目のない支援に取り組むとともに、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て世帯の経済的及び精神的な負担の軽減に取り組めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
本市が子育てしやすいと感じる人の割合(%)	67.0	70.0	64.4	↘	▲ 5.6

(1)結婚・妊娠期から子育て期にわたる包括的な支援体制の充実

結婚を望む市民に出会いと交流の場を設けるほか、地域に根差した結婚活動を支援します。また、市民が安心して子供を産み育てることができるよう、妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援体制の充実を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		実績値					
本市で子育てを希望する人の割合(4か月健診時)(%)	95.0	97.0	R5状況	97.5	96.9	97.5	-	○	0.5
今 後 の 方 針									
児童福祉と母子保健を一体的に行うこども家庭センターを令和6年4月1日に設置し、妊娠期から子育て期までの相談支援体制の充実を図る。									

(2)子育て世帯の経済的負担の軽減

経済的な不安が出産や子育てに影響を及ぼすことがないように、子育て世帯の経済的負担の軽減を継続します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)	実績値	248,867	257,874	287,075	-	○	32,075
こども医療費助成の延べ件数(件)	251,449	255,000	R5状況	令和5年度の助成件数は策定時の目標値より+32,075件であり、 R3:対象者 17,726人、延件数 242,390件、助成額 484,625,686円、 R4:対象者 17,318人、延件数 257,874件、助成額 498,411,176円、 R5:対象者 16,990人、延件数 287,075件、助成額 576,697,563円と推移しており、保護者の経済的負担の軽減につながっている。					
今 後 の 方 針									
引き続き、こどもの健康保持と健全育成、また保護者の経済的負担の軽減につなげるため、事業を推進していく。									

(3)子育て世帯の精神的負担の軽減

子育て世帯の精神的な負担を軽減するため、子育て親子の交流を促進するとともに、相談体制を強化するなど、支援体制の充実を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)	実績値	7,625	7,435	8,475	-	↘	▲ 6,525
こどもプラザの延べ利用者数 (人)	13,515	15,000	R5状況	令和2年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、利用者の制限や講座等実施の縮小等の影響で、利用者が減少していたが、感染の縮小により、利用者は増加傾向にある。					
今 後 の 方 針									
引き続き、子育て親子の交流の場の提供や子育てに関する悩みの相談、子育て関係の情報提供など、充実した支援を実施する。									

基本目標3. 仕事と家庭を両立しながら楽しく子育てできるまちづくり

妊娠中や子育て中の方の多様な子育てニーズに対応したサービスを提供するほか、保育者の働き方改革を推進し、より質の高い保育を提供します。
加えて、多様で柔軟な働き方や在宅勤務(テレワーク)にもつながるリカレント教育の推進やキャリアチェンジへの支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R5	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
子育てが楽しいと感じる人の割合(%)	59.2	63.0	58.8	↘	▲ 4.2

(1)ICT を活用した子育て支援の推進

保護者の多様なニーズに対応するとともに、子育てサービスの利便性を高めるため、ICTを活用した子育て支援を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)		1	2	3	-		
ICT を活用する子育て支援事業数(件)	0	4 (累計)	R5状況	①保育所ICTシステムを、新たに私立保育所等5園が補助金を活用し導入した。(導入状況: 公立保育園9園(全園)、私立保育所等19園(51園中、導入率37%)) ②妊娠・出産・子育てに関するオンライン相談を、令和5年9月から試行的に開始した。 ③病児病後児保育、こども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成等の一部の子育て支援手続きで、オンライン申請を開始した。					
今 後 の 方 針									
①令和6年度は、新たに私立保育所等12園(予定)に対し、保育ICTシステム導入を支援する補助金を活用し導入を進める。保育システムを導入した保育所において、システムの効果検証を実施するとともに、導入効果等の情報発信や報告会等を開催し、未導入園への導入を推進する。 ②里帰り出産など市外に一時居住等で直接の面談が困難な場合は、オンライン相談とすることで、担当保健師の顔が見えることにより、相談者とのコミュニケーションの向上と安心感の確保に繋がるため、今後も周知啓発を行っていく。 ③今後も、児童手当等の手続きや保育所等の空き状況のネット確認など可能な事業からオンライン申請等の導入を進める。 ④母子健康手帳アプリ等の導入は、国が令和7年度にガイドラインを策定する予定であるため、国の動向を注視しながら、マイナ保険証や健康管理システム、予防接種システムとの連携も考慮し、利用者の本人認証の方法やアプリの内容・導入時期等の計画を立てる。									

(2) 質が高く利便性の高い保育環境づくり

待機児童「ゼロ」を継続するため、引き続き、保育所等の施設整備に取り組みます。また、保育者が保育に専念できる環境を整備するとともに、保護者にとって利便性の高い保育環境づくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
病児・病後児保育の利用申込に対する利用決定率(%)	100	100	R5状況	100	100	100	-	○	0
市内の3施設及び氷川町の1施設、計4施設で実施し、令和5年度は、利用延人数1,179人が利用している。利用実績は、令和3年度は915人、令和4年度は778人、令和5年度は1,179人と増加している。利用希望には対応できている。									
今 後 の 方 針									
事業を継続して実施するとともに、実施体制の整備や申込方法の電子化等による利便性の向上を図る。									

(3) 子育て中や子育て後でも就労しやすい環境づくり

就労に対し制限が必要なタイミングであっても、就労やキャリアアップ等ができるまちづくりを推進するため、多様な柔軟な働き方の普及を後押しするとともに、リカレント教育の推進やキャリアチェンジへの支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
市主催のプログラミングスクール等の受講者数(人)	0 (未開催)	300 (累計)	R5状況	116	361	516	-	○	216
プログラミングスクール関連事業はR4年度で終了し、子育て世代のテレワーク就労支援事業へ移行。在宅ワークに必要なスキルや知識の習得など全18回の講座を実施。講座に意欲的に参加いただけた結果が、目標達成につながった。									
今 後 の 方 針									
令和5年度に引き続き事業を推進し、多様な働き方の普及に努める。									